

平成31年度

市民事業評価会議
結果報告書

①心身障害者福祉手当支給事業

(委員) 65歳以上の新規の対象者を受けないのか。それはなぜか。

(市) 新規に障害者手帳の交付を受けた方は対象外。65歳以上で、もともと障害がある方が転入してきた場合は継続支給する。

理由は、65歳を超えてから脳血管障害やその他の障害になると介護保険制度でサービスを受けることができる。そのためこの制度の対象外としている。

(委員) 65歳未満で障害がある方は継続できると、その方の介護保険はどうなるのか。

(市) サービスを受けることはできる。「手当」は経済的な保証の側面が強い。65歳前から障害がある方は就労が困難という場合が多い。老後の経済的な保証としてもこの手当を支給している。

(委員) 手当に関しての用途は限定されていないのか。

(市) 特にない。

(委員) 支給額はいつから決まっているのか。

(市) 制度が始まってから支給額は変わっていない。昭和49年から始まっているが改正はない。

(委員) 他市と比べてどうなのか。

(市) 26市中、東京都の制度の額に上乗せして実施している市は24市ある。一番低額な市は4,000円。高額な市は1万2,500円。平均は6,500円なので東大和市はほぼ中間くらい。

(委員) 手当に関して縮小、削減は難しいと思うが、この事務に係る経費で削減できることはあるのか。

(市) 例えば、現況届の提出の際、対象の方に持参していただく方法だったが、一昨年から返信用の封筒をつけて送付し、手続きに係る負担軽減を行っている。

(委員) 上乗せの内容はどのようなものか。

(市) 支給する等級の幅を広げている。東京都の制度だと1級、2級だけが支給対象だが、市の制度は軽度の人にも手当を支給している。

(委員) 支給されている金額が足りているか、そうでないかは人によって違うと思うが、受給者の意見を聞く機会はあるのか。

(市) 現況届の時に話をうかがうこともある。老人ホームに入所すると手当の支給対象外となるので現況を確認している。

(委員) 反応はどうか。

(市) この支給額で満足だという声はなかなかないかもしれない。4か月分をまとめて支給しているが、支給日が近づくと問い合わせがあるので、生活費の一部として手当を必要とされているということがうかがえる。経済的保障として障害者年金、1級と2級があるが2級は年額78万円。重度の方は他の制度があり、おおよそ220万円。軽度の方は国の制度がないので78万円に市の制度7万3,000円を足した額となる。

(委員) 就労支援はどの部署で行っているのか。

(市) 「総合福祉センター はーとふる」に委託している。福祉的な就労から一般就労へつなげるような支援を行っている。

(委員) この事業は継続してほしい。他に、手当とは別の経済的な保証や就労支援の仕組づくりはできないか。

(市) 就労することによって経済的な自立度が高まれば、金銭支給は少なくとも済む。東大和市障害者総合プランの中で、重点施策として就労支援に特に力を入れて取り組んでいるところである。一般就労もあるが、市内の12か所にある作業所に通っている方は、一般就労は困難でも作業した製品の売り上げによって工賃が得られるため、工賃のアップも支援していこうとしている。市役所ロビー展の開催で、市役所のロビーを使うことにより、各作業所が自主製品を販売する機会を設け売り上げを伸ばしてもらおう。自主製品の売り上げの対価として工賃が支給されるが、一般就労とは金額がかなり違い、一人当たり月額1万円から1万5,000円。その金額を増やすことはなかなか難しい。

(委員) 現実的に難しいかもしれないが、2次評価会議で出された意見にあるように、この業務に対して0.1人で事務をしているので、他の部署とタイアップできないか。就労支援は他の機関かもしれないが、今は企業でも法律で事業規模に合わせた障害のある方の雇用をしているので、就労支援のようなことに力を入れてはどうか。また、振返りシートの中の課題に記載されてもよいのではないかと。「手当の制度は必要がなくなるようにする」ということを目標にするのもいい。今後の方向性として示しておいた方がいい。難しいことはわかるし、実施することは大変だと思うが、縦割りを割るからこの会議の意味がある。

(委員) 手当の支給や補助金というものの最終的な目標は、「出さなくてよい状況になる」ということではないか。この手当であれば、障害者の方が、きちんと快適に過ごせること。制度として金銭的に補完するということは大切だが、よりよく生きていく仕組みがあれば、その方がいいのではないかと。担当者が課題として考えていることは何だろうか。困っているから手当を支給する、少しでも楽になるのなら手当を支給する。その後の市としての本来の姿とはどうなのか、どうしていきたいのか、ストーリーのようなものが、振返りシートから市民に見えるようになったらいいと思う。

(市) 目標の設定が難しい。大きくするか、広げるか。手当の制度はこれ以外にもあり、就労支援の仕組みもある。金銭的な経済支援はなくてはならないものである。

(委員) 次回は振返りシートの「仕事の目的」を考えて、課題を表現しなおすともっと良くなるのではないかと。

②商工会補助事業

- (委員) 振返りシートには商工会の会員以外も対象とあるが、説明では会員の事業者が対象であるとのこと。どのようなことなのか。
- (市) 経営相談は市内事業者全体だが、様々な施策の情報提供については会員の事業者のみであるということ。
- (委員) 事業者全体を対象としているという説明に対して、会員のみに行っているということの理解が難しい。
- (委員) 市が行っている仕事と商工会が行っている仕事の説明が混同してしまっているのではないか。
- (市) インターンシップの部分を別に行っている事業について上乘せしている。
- (委員) 自己評価としてはどうか。
- (市) 数値的な部分の評価が難しく、会員数で成果を表している。
- (委員) 2次評価会議で出された意見にもあるが、1,018万円という補助金額を市は支給し、それが何に使われているかわからない。成果が経営指導件数だが、どういう指導があって、これが何かしらの目標値にならないのか。
- (市) この補助金は、市内の事業者に対する経営指導に使われている。経営相談や相談会、商工、工業、建設事業の振興費、雇用対策、情報化推進対策。相談員の人件費、運営費など多岐にわたって使われている。
- (委員) 補助金を交付することによって、その効果や何に対して有効だったかどうか市はつかんでいるのか。補助金の内訳もない状態で評価や判断をすることはできない。
- (市) 効果を数値的にとらえるのは難しい。本来、市が行うべき事業を市が行うのが困難なため、その運営費を補助している。
- (委員) 「何で成果を図りますか。」との問いに、「多岐にわたっている」ということでは評価できない。
- (委員) この予算をかけたことが、誰に対してどういうメリットがあり、成果があったのかということである。有効に使われていないのではないか。お金を出した結果なのだから、出したことが成果にはならない。
- (市) 市の事業者が少しずつ活気を取り戻していると実感している。
- (委員) それはどこからわかるのか。
- (市) 廃業率が少なくなっている。
- (委員) そうであれば、廃業率を目標にすればいいのではないか。起業率も加えたらいいと思う。
- (市) この補助を行うことによって市内事業者が保たれていることが成果と考えている。
- (委員) 例えば、商工会が行っていることに補助しているのだから、効果があったかどうか商工会にも自己判断してもらい、有効に交付しているつもりだと評価してもいいのではないか。相談件数が目標ではなくて、少なくとも効果があるのかどうか把握できるものはないか。相談があったのだから、解決できたかどうかを把握して、それを積み上げたら件数が出るのではないか。

- (委員) 商工会が行っている事業に対しては他にも様々な補助があるので、商工会に携わっていない人はわかりづらいかもしれない。具体的な個々の数字を記載するなど、振返りシートの書き方を改善してはどうか。
- (委員) 年1度報告会を行っているということだが、どういう報告なのか。
- (市) 細かな件数などの数値的な報告がある。成果についての分析は記載されていない。
- (委員) 補助金は報告する義務があると思うが、使われた金額は報告されているのか。
- (市) 国や東京都の補助があり、使途が決まっている中で、市からの補助金として地域振興に係る部分に充当されている。
- (委員) 市の中で商工会の実績報告書を精査する機会はないのか。
- (市) 改善の提案を出すことはある。市は適切に執行されていると判断している。
- (委員) 今の振返りシートの記載内容だとそれが見えない。
- (委員) 地域振興事業費として具体的に把握している用途はどのようなものか。
- (市) 女性部の活動でつるし雛を作って商店街のお祭りに飾り、物品の販売だけでなく商店街のお祭りを盛り上げている。ただし、成果を把握しきれていない。
- (委員) 2次評価会議で出された意見に記載されてあることが全てである。ここが改善されればいいのではないか。

③中央公民館事業

- (委員) 委託料の中にはどんなものがあるのか。
- (市) 主に機械警備や清掃など施設を管理するための委託料である。
- (委員) 委託料の金額は、施設が古いから高いとか新しいから安価などとは関係ないのか。
- (市) 法的に義務づけられているものとして、受水槽や高架水槽、エレベーターの保守点検、消防設備点検等がある。こうみんかんだよりの配送なども委託料に含まれている。
- (委員) この事業費は5館分ではなく中央公民館のみの費用なのか。
- (市) ここに記載があるものは中央公民館だけの事業費である。
- (委員) 成果指標に公民館施設利用者があるが、利用者は他市に比べて多いのか少ないのか。近隣の市町村に比べて市民対利用者がどのくらいの割合なのか。延べ人数では利用者が多いのか少ないのか判断ができない。
- (市) 26市の中で公民館がある市とない市があるが、他市の館長との意見交換の中では、東大和市は比較的多くの市民に利用していただいていると認識している。
- (委員) 振返りシートの成果指標の目標欄が空欄になっている。民間企業では各期で必ず目標を立てて、その目標に対して何をしたかという結果を必ず問われる。目標をたてれば達成したか、達成しなかったかが定量的に見えてわかりやすいのではないか。
- (市) 近いうちに他市の館長と集まる機会があるので早速情報交換したい。
- (委員) 部屋の稼働率はどのくらいなのか。
- (市) 68.53%で推移している。他館は南街公民館 70.7%、狭山公民館 47%、蔵敷公民館 59%、上北台公民館 65.6%となっている。
- (委員) 市の中で地域性はあるのか。利用率の差の原因を把握しているか。
- (市) 新興住宅地である駅に近い南街公民館で比較的多く利用していただいている。
- (委員) 住んでいる人口が集中しているからということか。
- (市) 新しく転入された方が多くその方々から一番近い公民館が南街公民館であるからではないかと考えている。
- (委員) 利用者が高齢化していると記載されているが課題と矛盾していないか。
- (市) 会館当初から継続して利用している方がいて歴史もあるが、新しい人の利用が多いのではないかと。
- (委員) 市の相対比較ももちろんだが、公民館の利用率の差は何であるとか、歴史なのか、コンテンツなのか。利用率を上げることが目的になるのではないかと。市の中でもこれだけの差がある。地域によってモチベーションに差もあるだろう。成果指標の主催事業の利用者が大きく動いている。この理由は何か。
- (市) 中央公民館まつりの実施年度が2年に1度のため。
- (委員) 利用グループの数もかなり異なるがどうなのか。
- (市) 利用グループの年度更新の際の、グループカード数を記載している。例年5月末の提出期限に間に合わないグループがあるので数に変動がある。
- (委員) グループが減るなら利用人数も減るのではないかと。再確認が必要である。

- (委員) 目標は多くの市民が参加することがよいと思うが、実態としてどのくらい利用者がいるのか。利用率と参加人数があってもいいのではないか。
- (委員) 以前保育付講座は人気だったが今はどうなのか。
- (市) 現在も定員いっぱいの申込みがある。保育付きの公民館講座を通じて初めてお母さんになった人が講座に参加して社会に参加する、勉強をするきっかけになり大変好評である。南街公民館、上北台公民館でも実施している。
- (委員) 保育付講座に参加して友達ができた。とても大切な講座だと思う。回数を増やすなど検討をしてほしい。連続12回という講座は長すぎるので、スポット的に連続講座でも1回だけ参加できるとか、期間を短くするなど、参加できる機会、参加しやすい講座を増やす方がよいのではないか。
- (市) そのとおりだと考えている。
- (委員) 満足度はどのように把握しているのか。住民がどのように感じているか知ることは大切なのではないか。
- (市) 出会いの場であること、子どもを通じたつながりが大事だと思う。共通の悩みを話すなど、長くお付き合いをしている。公民館は横のつながりとしても大事な事業だと考えている。
- (委員) 数字を見て評価することもわかるが、地域とつながる、学ぶという事を数にするのは難しいと思う。公民館利用者が幼稚園の役員や小中学校のPTA活動をしている。地域で活動している。地域のリーダーをされている人も多くいる。そのようなことを数字にするのは難しい。
- (市) 多くの人に利用していただいている。人とのつながりを次につなげ、輪を広げていくお手伝いをするのが公民館の役割であると考えている。昨年度から「ヒガシヤマト未来大学」に取り組んでいるが、市民の方から職員の発想を超える提案がある。今後も市民の学びたいという気持ちに伝えていきたい。
- (委員) 施策名として「生涯学習の充実」という大きな目標が掲げられている。公民館から飛び出すような大きな課題だと思う。どの自治体でも同じだが、数であらわす部分と満足度であらわす部分があり、もう少し目標設定など考えてみたらどうか。公民館を利用した実人数を把握する、昨年度市民になった人が公民館を利用したかどうかなど。そのような数値は把握しにくいですが、次の事業を考えていく上で、その数値を生息の情報として持っているとても役立つのではないかと。地域のリーダーとして活躍している人の数を確かめられるかどうかはわからないが、他部署と情報交換やアフターフォロー等として業務の参考となることが増えると思う。

④まち・ひと・しごと創生事業

(委員) 人口減少抑制の具体的な事業として行っている会議の他に何かあるのか。

(市) 不動産サイトへの広告掲載、結婚支援事業などを実施した。

(委員) 平成30年度の実績でマイナス149、マイナス32とあるが、実数は何人なのか。

(市) 3,348人転入し、3,380人が転出した。

(委員) 主な転出理由は何か。

(市) 転入転出者アンケートの中で、引っ越し先を選んだ理由として、通勤通学の利便性という項目を選んだ人が1番多かった。

(委員) 転出抑制に対する対策はどのようなことを実施しているのか。

(市) シビックプライドを醸成する。これは、地域に対するほこりや愛着を醸成するもの。今年度から取り組み始めたところである。

(委員) 具体的には何をしているのか。

(市) 東大和市の特長である「多摩湖」、「変電所」、「緑豊かな所」などのシビックプライドにつながるような種を探す。そしてその種を事業につなげていこうとしている、今はまだ始めたばかりで未知数である。

(委員) 結婚支援事業、レストランで実施した事業費はいくらか。

(市) 約17万7,000円。参加費は3,000円。

(委員) 参加できるのは市民だけか。

(市) 市の魅力を知っていただくためでもあるので市外の方でもよい。「東大和市の出生率って？」等クイズを実施するなど、良さを知っていただけるようにしている。

(委員) カップル成立2組とあるが、今はどうなったのか把握しているか。

(市) プライバシーもあるので、市として後追いはしていない。

(委員) 事業費が動いている。これはなぜか。

(市) 平成29年度は不動産サイトの作成費用がかかっている。特定財源で国や東京都の費用を活用している。平成30年度はメンテナンスをしたのだけなので費用はあまりかかっていない。

(委員) この事業は継続しているか。今年の予算はいくらか。

(市) 事業費約845万円。清瀬市とシビックプライドの事業を取り組むため、費用が増えている。

(委員) 2次評価会議で出された意見にもあるように、短期的に結果は出ないと思うが、東大和市だけが人口が増えればよいということではないと思う。市の事業だけで何とかしようとするのはどうなのか。市としてやるべきこともあると思うが、ぶつ切りでいいのか。「ナンバーワンの秘密」とは何か。結果論としてナンバーワンになったのか。それが資料の中でわからない。せっかくナンバーワンとなったのなら、それが見えてもいいのではないか。

(委員) 抽象的な内容が記載されているので、具体的な結果を記載してもよいのではないか。

(委員) なぜナンバーワンになったのか記載したらどうか。

- (委員) 3年間の事業費に開きがあって、長期的なビジョンでやっているとしたら、どのようなプランニングで、何をフィードバックしなくてはいけないなどスケジュールのようなものが分かれば理解しやすい。
- (市) 振返りシートをわかりやすくする工夫をしたい。
- (委員) 1年の短い間でプランニングの時間と実行したところの何を評価したらいいかわからない。
- (委員) 人口減少の抑制で死亡は抑えることはできないので、転出を減らして転入を増やすことになると思うが、通勤通学の部分が不便ということが転出の理由であれば、例えば熊谷市がやっているように交通費を市が支援するなどもっと目に見えるような効果的で具体的なことをやったらどうか。
- (委員) 東大和市から武蔵野線を利用するためのバス便が少ない。都営バスに増やすように要請できないか。また、西武線は急行となっても停車駅が多すぎて、都心につくまで時間がかかる。西武鉄道に何か要請できないのか。大企業を誘致するなどしないのか。
- (市) 通勤、通学の利便向上に関する施策はやっていない。企業の誘致はまとまった土地もないため難しいが、中小企業や商店街の活性化には取り組んでいる。
- (委員) 他の部署が実施したことをまとめる部署なので、他部署が実施して功績があればそれを記載できるのではないか。
- (市) 今後振返りシートをわかりやすく記載したい。
- (委員) 具体的な事業の方向性はどうか。
- (市) 限られた範囲の予算で実施しているので難しいが、補助金を活用しながら事業を考えたい。
- (委員) 2次評価会議で出された意見に対して何か考えはあるか。
- (市) 庁内での意識を更に高める必要がある。
- (委員) 最近、「ゆったり日和」のポロシャツを着ている職員をよく見かけるが何のためか。
- (市) 着用することで、会う人へのアピールや職員のプロモーション意識を高めるなどの双方向への効果を期待している。
- (委員) 公費負担なのか、自費で購入しているのか。
- (市) 自費で購入している。
- (委員) 2次評価会議で出された意見にあるように、この事業自体がよくわからない。市の職員も理解できていないのではないか。
- (委員) 事業を実施した結果、どのようになったかを知りたいのではないかと思う。結果を振返りシートに記載してほしい。
- (委員) 公民館の事業費が人件費を含めて7,000万円ある中で、もう少し予算があってもよいのではないか。マクロ的な施策に対して、自信とプライドと誇りを持って事業に取り組んでもらいたい。
- (委員) 予算はいかに取ってくるかというものではないのか。委員の意見をしっかり受け止めてほしい。これはとても大切な事業である。そして成果があったら嬉しい事業。事業に対する意気込みが入ったら、もっとわかりやすくなるのではないか。次回以降考えてもらいたい。

⑤こども広場管理事業

(委員) こども広場と公園の名称の区別は何か。

(市) 公園については全ての方がゆったりと過ごしていただく場所。こども広場は、こどもの安全な遊び場を確保するもので遊具などがなく広場のような場所。

(委員) 公園があって助かっている。二小の学区域はボール遊びができる所が少なく困っている。小学校の一般開放は、先生の働き方改革で4時半までしか使えない。市として学校の校庭の利用も含めてうまく調整してほしい。市には東大和南公園など素晴らしい公園があるが、学区域ごとの配置も考えてほしい。遊具が少ない学区とボール遊びができる公園と広さや個数のバランスを考えてほしい。

(市) 学区域を考えるのは大切なことで、ぜひそうしたい。こども広場ではボール遊びができない場所もあり、学校の校庭でボール遊びをしてもらっているところもある。

(委員) こども広場の中でボール遊びができないところがあるのか。

(市) できない場所がある。ボール除けのためのネットが高額でなかなか設置できない。

(委員) 苦情対応は市がしているのか。

(市) 「市長への手紙」で要望がある。土曜日、日曜日を含めこども広場の状況確認をしている。

(委員) 苦情があることもわかるが、子ども達がボールで遊びたい気持ちもわかる。

(市) 学校開放していない学校もあり、ボール遊びする場所がないことは承知している。

(委員) 子育てしやすいまち日本一を掲げている東大和市だが、小さい子どもも大きくなる。ボール遊びもしたいだろう。

(市) 市民の方からもよいアドバイスをいただきたい。

(委員) 賃借料は毎年かかるのか。

(市) 18か所中12か所で賃借料2,383万円かかっている。1か所年間約200万円かかる。内容としては除草の委託料、電気代、水道代、消耗品費などである。

(委員) こども広場と公園の差、ボール使うか使わないかわからないが、人口の分布は予想がつくので、お子さんがどのくらいの比率でいるかによっては、もう少し具体的に転出比率やお子さんの数でプランを出すということをした方がよいのではないか。

(市) こども広場の整理は容易ではないが、少子高齢化、市の財政の先細り、見直し計画を作って説明してご理解をいただくことが必要だと考えている。

(委員) 過去に市の特色ある公園づくりの懇談会に参加していた。この地区に何歳の方が何人いるというデータを全部見せてもらった。ボール遊びができる公園、遊具のある公園など、改革が進んでいる懇談会だと思っていたが、終わってしまった。あの時の委員が集まって再度検討したらよいのではないか。

(委員) そのようなデータがあり、会議があったのなら、あるものを使っていないということが問題である。この振り返りシートではそのような計画が見えないし、わからない。

(市) これから計画を作る際に活かしていきたい。

(委員) 計画を作って、事業を実施し、振り返るというシートになっていないようである。

(市) 公園とこども広場の管理担当課として、全体の再編計画を作らないとならないと感じている。

(委員) 遊具が大分少なくなっていると感じるがどうなのか。

- (市) 遊具が老朽化しているため、安全点検をして危険な遊具は撤去した。少しずつ修繕したいと考えている。
- (委員) 苦情はあるかもしれないが、知っている子が投げるボールに対しては苦情にならないという話もある。つながりが希薄になる中で、近所の人たちが公園について話しあう懇談会ができ、どうすれば苦情がなくなるかということや、公園への愛着心など、公園を通じてコミュニティーができればいいと思っている。
- (市) 近所の人もし知り合えば、顔がわかれば苦情につながらないことは理解している。
- (委員) 適切な予算が確保されていないのか。
- (市) トイレが汚い、木が伸びているという苦情を多くいただくが、対応ができていない。
- (委員) 人や予算があれば色々できるがという話や、こども広場の統廃合ができるという話だが、具体的な計画がない中でそのような話をするのは少し強引で、振返りとしては少し危険ではないか。
- (市) 現役世代が減ると税収が少なくなる。市税収入がどんどん少なくなる。公園に配分される予算も少なくなっていく中で対応を考えている。
- (委員) こども広場の課題と目的は達成されたのか。大きな課題や将来的なことではなく、今ある力と予算でできることは何と考えるのか。
- (市) 一定レベルは達成できた。事故はなかった。午前中は小さいお子さんと高齢者、午後は中学生、高校生の利用がある中で事故がなかったということは達成された。今後できることとして、市民の方を巻き込んで盛り上げていきたい。
- (委員) 評価をする際に、予算が確保されていない、統廃合すべきだということになると今のこの事業に対する意見が難しくなり、評価がしにくくなる。
- (市) 今すぐに委託するというのではなく、これから検討していきたいということである。
- (委員) 住民の満足度が表れにくいとは思いますがそこはどのように考えるか。
- (市) おおむね好評いただいている。場所によってボール遊びができないこども広場があるが、下立野林間広場はバーベキューなどもできて、大変好評である。
- (委員) 下立野林間広場は、貴重な空き地の部分があるが、子どもたちはなかなか行きづらく、なぜか踏み入れられない。ドングリの苗木を植えている。コーディネーターを入れて貴重な広場の活用をしたらどうか。西側の部分などの活用を市民として一緒に考えてみたい。
- (委員) 公園については、住民の中からも色々なアイデアが出てくる。お金をかけずにできることがあるのではないか。
- (委員) こども広場の状況を見に行っているのなら、現場を見に行くだけでなく、利用者の声を聞き、それを将来の方向性というところで活動指標にしたらいいのではないかと。

⑥指定管理委託業務（体育施設等）

（委員）指定管理者に委託して何が良くなっているのか。

（市）団体利用、1年間の使用状況の表。4月使用可能回数、一番広い所86.6%ほとんど空きがない状態。平均すると70%~70%後半となる、指定管理にしたから良くなったかという数字は直営で実施していたのは10年前のため数値としては出ないが、現在は体育施設について、利用時間が長くなり、利用しやすくなっている。個人利用もかなり好評で利用率が高い。体育館だけでなく、市民プールでも多くの利用があった。テニスコートも利用率が高い。野球場は使いやすい時間帯はほぼ埋まっている。野球場を一般開放している。ボール投げなど好きなように運動してもらう機会を設けている、桜が丘は、ゲートボール、サッカーなど利用してもらっている。民間の力を借りて運営し、高い利用率が得られている。

（委員）それが成果として見えるようにしてもらって、評価させてもらいたい。今説明のあった利用率が振返りシートに記載してあるとわかりやすい。利用状況はどうなのか。

（市）年度によって若干上げ下げがあるが、経費のところにあるように指定管理料が下がっている。民間の企業努力によって委託料は下がり、利用時間、土曜日、日曜日の受付の利便性が高くなっている。

（委員）そのような内容を振返りシートに記載すべきである。

（市）直営に比べて、利用できるコマができた。より気軽にスポーツができるようにバスの運行もしてもらっている。

（委員）そのような重要なことが振返りシートに記載されていないが、指定管理委託になって年数がたったことによって、よくなったという比較ができなくなってしまうのか。

（市）直営の時には、他にも市民体育大会などの事業も実施していたので、単純比較が短時間ではできなかった。

（委員）卓球をやりたいが、市民体育館では、利用時間の2時間が長すぎる。せいぜい30分あれば十分。個人利用は30分など時間の枠を作ってもらえたらもっと利用しやすくなると思う。

（市）時間の枠について指定管理者に伝えてみたい。現在、市の条例では何時から何時までという料金設定になっているので、すぐに実施できるかわからないが検討させていただく。

（委員）「こども広場管理事業」の中でボール遊びに対する苦情がたくさんあると市からの説明があった。上仲原公園の開放は何時から何時までか。

（市）指定管理者常駐で、7月、8月を除き、毎週木曜日の午後の2時間又は4時間を開放している。指定管理者が特色のある公園づくりのサービスとしてやっていることである。

（委員）環境課はそのことを知っているのか。連携ができているか。

（市）環境課とは連携している。

（委員）市民へのアナウンスがされていないのではないか。

（市）1回に30~40人くらいの利用がある。HPにも掲載し周知している。日数を増やして欲しいという声もあるが、野球場として使うことができなくなってしまうのでそのバランスもある。

（委員）指定管理者の選定期間は5年に1回か。時期としてはいつか。

（市）現在、選定中である。

(委員) 市の選択肢は多いのか、応募は多いのか、競争となっているのか。

(市) 指定管理者選定委員会で、公平、公正な審査を進めてもらっている。

(委員) 指定管理業者の評価をどのようにしているか。それはどんな所を重視しているか。

(市) 指定管理委託料は重視している。その他、魅力的であるか、施設の管理、メンテナンスの状況などを評価している。利用しやすい施設であることが一番である。

(委員) 企画が上がるのか。

(市) スポーツ大会、地域との連携など多くの企画が上がる。

(市) 今後はスポーツ実施率を伸ばしたい。医療費の抑制にも寄与する。日頃運動していない人にかに運動してもらおうか。一度体育館にお越しいただくようにしていきたい。

(委員) 仕事として、課題として、指定管理委託業務というのは一つの方法であるが、振返りシートの事業名としては違和感がある。生涯学習係ではもっと様々な仕事をしているので見直しできるのではないか。

(委員) 体育館や市民プール利用者の駐車場の確保など、利便性を上げることはできるか。駐車場がいつも満車でタイミングがよくないととめられない。

(市) 大きな大会などがあると満車となってしまう。市民プール利用者には駐車を遠慮いただいている。

東大和市は他市に比べて駐車場が広いとはいえない。バスを活用していただくことがよいと考えている。バスは1日5便で市報にも掲載している。また、公共交通機関の利用をお願いしたい。周辺はコインパーキングもないため理解いただきたい。

(委員) バスの運行にはお金がかかると思うがいくらかかっているのか

(市) 指定管理委託料の中に含まれている。バスは登録料が年間540円かかるが、乗る際は無料。

(委員) 足の便は重要だと思う。

(市) バスの運行は指定管理者の提案から始まった。事業者が変わるとなくなってしまうかもしれないが、限られた金額の中でできるだけ利用しやすい施設にしていきたい。

(委員) 指定管理者から提案された事業の中でよかったものはどんなものがあるか。

(市) バスの運行、ヨガなど競技スポーツではないものも実施している。

(委員) 民間になって利便性が向上したことなど、よくなったことが他にもあるのではないか。次の担当者に引き継ぐためにも、よかったことはもっと振返りシートに記載しておくべきである。

評 価 結 果 一 覧

	事業の方向性					予算の方向性		
	拡 大	現状 維持	縮 小	休止又 は廃止	受益者 負担の 見直し	増 加	維 持	削 減
心身障害者 福祉手当支給事業		4					4	
商工会補助事業		3	1				3	1
中央公民館事業		5					5	
まち・ひと・しごと 創生事業	2	3				1	4	
こども広場管理事業		5					5	
指定管理委託業務 (体育施設等)		5					5	

※評価結果欄の数字は方向性を示した委員の人数です。
(合計数=出席人数です。)

委員の感想

- 市が市民のために事業内容を考えて取り組んでいることがよくわかった。
- 市民も課題が何か、また、その解決のために声をまとめ、要望をあげていくことが大事なのではないか。
- 今期だけではないが、振り返りシートはもう少し見やすく、わかりやすく記載してほしい。施策名が事業と合致していないと感じる事業もあった。
- 振り返りシートが適切に記載されていない。委員の指摘だけで本当に改善されるのだろうか。
- 委員の意見がどのようにフィードバックされ改善につながっているかが知られなくてはいけないと思う。それが市民参加の前提ではないか。
- 様々な事業を知ることができた。市民と市と一緒に目的のために活動していける事業が増えるといいと思う。
- 数値では評価しにくい事業もあるが、市民からこんな意見があったなど振り返りシートに記載したらどうか。
- 今後も市の事業について関心を持ち、市民としてできることがあれば協力したい。
- 事業自体の方向が定まっていない事業、市民の目線とは違う取組をしていた事業もあった。委員からの意見が少しでも参考になったらいいと思う。
- 評価というと、とかく数値で見えるものだけに重きがおかれがちだが、その事業によって市民がどれだけ満足したか、その後の生活にどんな豊かな広がりをもせたのか、何の影響があったのかなど数値化しにくい部分も振り返りシートに記載があればよいと思った。
- 2次評価会議の意見に有意義な発言が多かったので、次回以降も資料として提示し、議論ができるとういと思う。
- ファシリテーターが、穏やかで話しやすい雰囲気を作ってくださり感謝している。
- ファシリテーターの進行が素晴らしく、まとめ方もわかりやすくリラックスして発言することができた。

市民事業評価会議委員

飯名 剛委員、 石田 有史郎委員、 奥田 真由委員、 砂田 裕一委員、
 寶田 和由委員、中嶋 洋介委員、 町田 美香委員、 山崎 喜美子委員（五十音順）

任 期：平成29年5月17日～令和2年3月31日まで

ファシリテーター：池田 隆年 氏

日時・対象事業

日 時		会 場	対象事業名	担 当 課
7月 9日(火)	午後7時～7時50分	中央公民館 301 学習室	心身障害者福祉手当 支給事業	障害福祉課
	午後8時～8時50分		商工会補助事業	産業振興課
7月16日(火)	午後7時～7時50分	中央公民館 301 学習室	中央公民館事業	中央公民館
	午後8時～8時50分		まち・ひと・しごと 創生事業	企 画 課
7月23日(火)	午後7時～7時50分	中央公民館 301 学習室	こども広場管理事業	環 境 課
	午後8時～8時50分		指定管理委託業務 (体育施設等)	社会教育課

平成31年度 市民事業評価会議結果報告書

令和元年10月発行

編集・発行 東大和市 企画財政部 行政管理課

東大和市中心3丁目930番地

電話 042(563)2111内線1441

東京
ゆったり日和



東やまと